



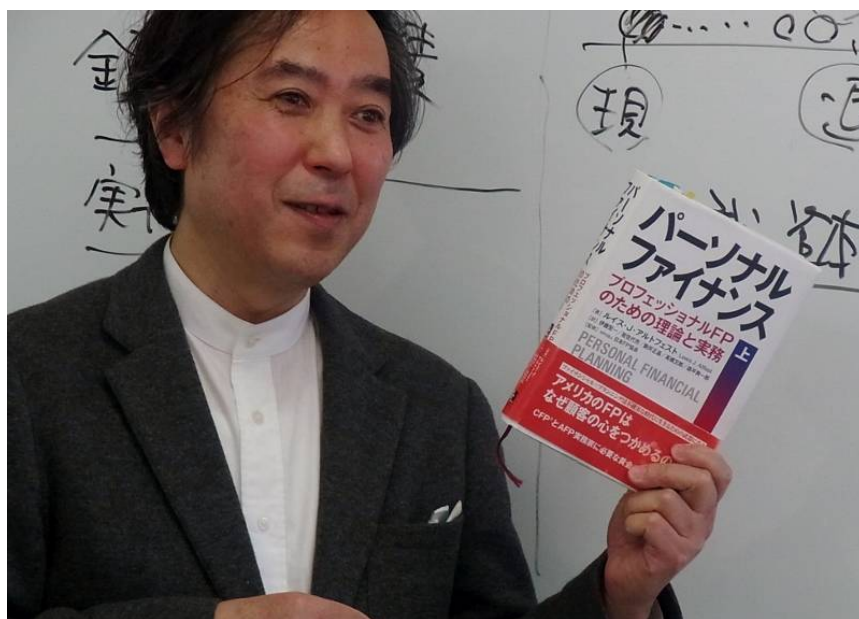
I-OWA マンスリー・セミナー講演 「統合ポートフォリオ管理の手法と資本ニーズ分析」

講演: 伊藤 宏一

レポーター: 川元 由喜子

ちょっと見たところ難しそうなタイトルですが、個人が自分の生活設計に基づいて資産運用をしていく上で大変有効な考え方で、日本では欠けている部分でもあります。これについて、アメリカで「パーソナル・ファイナンス」(アルトフェスト著)という良い本が出たので、この度、翻訳しました。お金だけではなく、それも含めて人生を豊かにしていくためにどうしたらいいか、という視点で書いてある、非常に珍しい本です。

著者のアルトフェストはパーソナル・ファイナンスを、「個人がキャッシュフローを如何に生み出して自分の家計運営を支え、良い暮らし(well-being)をするか考える研究」と言います。Well-being には主観的な満足感を意味する「幸福」だけではなく、客観的な条件、例えば水が飲める、社会的な貧困が無い、戦争が無い、なども含まれるのですが、そうした広い意味の良い状態でずっと生きていけることが目的なのです。



家計のファイナンスも、企業と同じように考えます。まずは、日常的な財務活動。その主要素は、仕事や投資によって収益を生み出す活動、固定費、そして自由に使えるお金です。固定費を把握し、自由に使えるお金をどうやって増やしていくのが課題です。二番目に重要なのは、資本的支出です。消費の中身を、飲食などによりなくなってしまうものと、出費の効果が一年以上先に及ぶようなものに、きちんと分ける必要があるのです。例えば住宅や教育支出など、将来にわたって役



長期投資仲間通信「インベストラيف」

に立つものが資本的支出です。そして三番目が、借り入れです。

家計も企業のように年一回、収入と支出を記した損益計算書と、資産・負債を記したバランスシートを作り、決算を行うべきでしょう。バランスシートの左の資産から、右の負債を引いた差額が純資産で、Net worth といいます。Net worth の大きい人がお金持ち、High net worth というわけですが、お金持ちになるというのは、この部分をいかに増やすか、という話なのです。

バランスシートの資産には、金融資産と実物資産がありますが、家計の場合はもう一つ、人的資産があります。体が資本だとよく言いますが、自分自身も働けばキャッシュを生むわけですから、それを現在価値で表して人的資産とします。何か行動する時には、この 3 つの資産の組み合わせと、負債とのバランスをとって意思決定をしましょう、というのが「統合ポートフォリオ管理」という考え方なのです。

ポートフォリオというと、リスクはどれくらい取れるかといった情報を基に、債券と株式の割合が云々、という話になるのが普通です。ところがそれは金融資産だけのポートフォリオです。住宅などの実物資産も、職業や相続関係などの人的資産も含めて、全体のバランスを考えることが重要です。

講演ではこのほか、財務分析の手法を用いた家計診断や、退職資本ニーズとそれを充たすための家計の運用についても、具体的な事例やシミュレーションを用いて、詳しく解説していただきました。